

NPO 法人 MAKE HAPPY

2018 年度 年次報告書



目次

- 2P 目標
- 4P MAKE HAPPYとは
- 6P 足跡
- 8P 植林間伐
- 16P 挑戦
- 22P 感動共有
- 26P 災害復興支援
- 37P イベント報告
- 38P サポートのお願い
- 39P 会計報告



"Let's keep making a story of hope"

MAKE HAPPYの目標は

一人でも多くの人の心の中に、元気や希望が増えるきっかけを創ることで。

「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」

という思いから



私たちは、

希望の物語を

創り続けるNPOです。

みんなの「はじめの一歩」をサポートし
行動する人を増やすことによって
お互いを応援しあい、助けあうのが当たり前になる世の中を創り
地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やして行きます。

繋がりを大切にして、さまざまな活動を笑い楽しみながら行動することで
「いつの間にか誰かの力になっていた」
そんな新しい常識を創りながら
一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯して行きます。

MAKE HAPPY

代表挨拶



いつもメイクハッピーを応援して頂きありがとうございます。今まで MAKE THE HEAVEN として活動をしてきましたが、この度団体名を変更させて頂きました。これからさらにハッピーなきっかけを作っていけるように思いを込めて、NPO 法人 MAKE HAPPY として一歩踏み出しました。

2018 年は、中国植林ツアーが 20 回目と 13 年間活動を続けることができました。植林活動ができるのも、砂漠緑化の父と名高い遠山先生のお弟子さん、高橋さん(アジア・エコツアー・ネットワーク(株))をはじめ、内モンゴル自治区の皆さん、政府の皆さん、参加してくれる皆さんのおかげです。また、2018 年は新しい挑戦のきっかけの場を広げるために、アドベンチャーレースのほかによりたくさんの方が参加できる企画として【踊りに挑戦】【合唱に挑戦】をしました。また 7 月に起きました西日本豪雨災害では、岡山県倉敷市で緊急復興支援「め組 JAPAN」岡山を立ち上げ、真備美しい森に拠点を置き、め組 JAPAN 現地リーダー今井健太郎を中心に活動し、多くの方が参加して頂きました。これからも住民さんに寄り添いながら、少しでも笑顔のきっかけを届けていけるように活動をしていきます。

代表となり 3 年目となりますが、一つひとつ今できることを大切に一生懸命活動に取り組んでいきます。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

理事長 こういちマンモス(川島 孝一)

理念

「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」という思いを大切に、笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける活動をします。

活動概要

MAKE HAPPY は、2018 年も「笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける」をモットーに活動しました。



植林・間伐プロジェクト 「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超え、みんなでチカラを合わせて植林を実践しました。また、東北では未来の津波に備えて植林&育苗を行いました。

挑戦プロジェクト「TEAM A ☆ H ☆ O」

できる、できないではなく、笑い楽しみながら一步を踏み出すことの大切さを伝えるために、今までやったことのない、踊り / 歌にみんなで挑戦し、素敵な仲間が増えました。



感動共有プロジェクト「アミーゴ大作戦」

つながりを大切に、1人では難しいと思うことも、みんなで助け合って支えあうことで一緒に笑顔を増やし、みんなで喜び合うきっかけを創りました。日本全国で映画「LIFE TREASURE」の上映会を行いました。



災害復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」

「平成 30 年 7 月豪雨」の災害で生きる気力が小さくなっている人に、「一人じゃないです！みんながついてます！」というメッセージを届けながら、希望の種を一人一人の心の中に植えて行きました。

組織図

役員名簿

理事長	川島 孝一
副理事長	谷口 保
副理事長	中村 雅人 (世界一周学校校長)
理事	Daisuke Katsumata (音楽家)
	池田 親生 (株式会社ちかけんプロダクツ)
	三城 賢士 (株式会社ちかけんプロダクツ)
	瀬川 映太 (一般社団法人ワンダラスライフ)
	小泉 雅央
監事	今井 健太郎 (笑顔が増える株式会社)

メイクの足跡 (2004~2018)

2004/4

NGO MAKE THE HEAVEN 設立

※環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして、世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集まり、NGO MAKE THE HEAVEN が誕生しました。
※設立者は、てんつくマンこと軌保博光氏

2004/8

カンボジア支援プロジェクト発足

翌年、プノンペンにカンボジア支援プロジェクト事務局を設置
※2016年までに、井戸掘り支援は915基の井戸を届ける事が出来ました。また、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育里親支援は延べ5,201人の子供達が学校に通えるようになりました。

2005/4

植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催

※2018年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、北海道、和歌山、熊本、宮城で計32回の植林ツアーを行い、延べ3,311人に参加いただき、植林木数は520,596本となりました。

2006/1

小豆島にて、げんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢楽」発足

※げんきのたね夢楽は、2011年5月末を持って6年間の活動を終了しました。2011年までに延べ1万人以上の方が参加していただきました。

2008/4

植林プロジェクト→「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」に

植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一円募金プロジェクトを開始
※2018年までに、1007人の一円ヒーローが誕生しました。

2009/11

映画「107+1～天国は作るもの～Part2」完成 / 公開

当法人前理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1～天国は作るもの～Part2」が完成及び公開
※2014年までに、同映画Part1と合わせて自主上映による観客動員数が約22万人になりました。
2015年からはPart1、Part2ともに自主上映を終了し、DVD化して販売しました。
※映画配給、DVD販売元は有限会社クラブ・サンクチュアリ

2010/4

間伐プロジェクト開始

※2015年までに静岡、山梨、熊本、奈良、宮城、和歌山で計9回間伐ツアーを行い、延べ492人に参加いただき、800本のスギ、ヒノキを間伐しました。

2010/5

ロックバンドおかんと専属事務所契約

※2013年4月大阪城ホールでロックバンドおかん単独公演を実施し、約6千人が来場。大阪城ホールの単独公演成功を持って、MAKE THE HEAVEN から独立しました。

2010/8

NGOから香川県の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証

※現在は、神戸市の特定非営利活動法人(NPO法人)認証済み。

2011/1

カンボジアくっくま孤児院運営開始

※2014年までに延べ2万人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加していただきました。

2011/3

東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足

2011/6

送電線国有化のための署名募集開始

※2012年10月までに179,820名分の署名をいただき、経済産業省に届けました。

2011/8

疎開プロジェクト洞爺バケーション開催

※2013年までに計3回(毎年夏休み)開催し、延べ337人の親子が参加していただきました。

2012/1

緑の防潮堤プロジェクト「希望の森モリ大作戦～東北植林～」発足

WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL とめ組 JAPAN の共同企画としてスタートし、東北で植樹するための苗木を、東北で取れた種からビニールハウスで育苗しています。
※2018年までに、宮城県岩沼市と石巻市にタネから育てた苗木を7,830本を植樹しました。

2013/4

カンボジア学校建設プロジェクト発足

※2016年までに、13の建物(幼小中学校11校と図書館、孤児院を一棟ずつ)を建設しました。

2014/1

フィリピン支援プロジェクト「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」発足

※お米やミシンの支援、ボランティアチーム「MY RIDE」の活動支援をしました。

2014/8

カンボジアの子供達が日本に来る「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」を開催

※2016年までに6回ツアーを行い、2016年はSpecia イベントを行いました。

2014/8

広島土砂災害復興支援「め組 JAPAN 広島」発足

※2014年8月末から9月末まで活動し、2,500人以上のお手伝いクルー（ボランティア）が参加してくれました。

2014/11

フィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施

フィリピンのバロ市で開催されたフィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施
※慰霊祭の会場に1,000本以上の竹あかりを飾りました。

2015/9

「1日だけの日本最幸の塾”諸君、狂いたまえ”」を実施

主催イベント「1日だけの日本最幸の塾”諸君、狂いたまえ”」を実施 ※約900名の方に参加いただきました。

2016/4

新理事長に「川島孝一」が就任

理事長交代に伴い、川島孝一が新理事長に就任。※軌保博光（てんつくマン）は顧問に就任。

2016/4

熊本地震災害復興支援「め組 JAPAN 熊本」発足

※2016年4月から2017年9月末まで活動し、2016年4,400人、2017年述べ3,737名のお手伝いクルー（ボランティア）が参加してくれました。

2016/4

「挑戦プロジェクト」発足

※2018年までに、サハラ砂漠・ブラジルジャングル・チリアタカマ砂漠・ペルーイカ砂漠・ニュージーランド、これまで6回のアドベンチャーレースに挑戦しました。67名が参加しました。
※2018年4月/12月に「踊りに挑戦」を実施。参加人数は26名。
※2018年12月に「合唱に挑戦」を実施。参加人数は、10名。

2016/4

「感動共有プロジェクト」発足

※2018年までに2回のビーチクリーンアップツアー in 香港を開催。これまでに32人に参加をいただき、約552kgのゴミを拾いました。
※2017年に完成した映画「LIFE TREASURE」上映会を全国で自主上映をしていただき、2018年まで延べ4000名に観ていただきました。
※2017年、会員様限定「第2回富士登山」を開催、これまでに、28名が参加しました。
※2017年、HAPPY ワッシュイ 屋久島を開催、10名が参加しました。

2016/4

カンボジア支援プロジェクト卒業

カンボジア支援プロジェクト卒業。独立し「NPO 法人 GLOBE JUNGLE」発足。

2017/5

映画「LIFE TREASURE」完成 / 公開

自主上映会の募集を開始しました。

2017/7

『メイクザヘブン祭り 2017~ 挑戦のその先に~』

主催イベント『メイクザヘブン祭り 2017~ 挑戦のその先に~』を実施 ※約80名の方が参加いただきました。

2017/9

日本縦断（北海道から鹿児島まで）歩いて制覇

活動を多くの方に知って頂く為に、理事長と副理事長を中心に助け合って、2,778Km を53日間で完歩しました。

2018/6

団体名を MAKE HAPPY に名称変更（前 MAKE THE HEAVEN）

2018/7

西日本豪雨災害支援「め組 JAPAN 岡山」発足

※2018年7月から活動し、1,188名のお手伝いクルー（ボランティア）が参加してくれました。

2018/12

「MAKE HAPPY 希望フェスティバル」イベント開催

※イベントを主催実施。参加に人数約180人



植林・間伐プロジェクト

WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL

今、世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり、その結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは、人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心をつなげて力を合わせる時だと思います。

2015年9月、193カ国の国連サミットで新しい『持続可能な開発目標』SDGs(エスディーゼーズ)が採択されました。持続可能な地球であり、未来の子供たちを犠牲にすることなく、世界中の人たちと協力してワンダフルな世の中にしていく目標を実現する為に、これからさらにグローバルな行動が必要になります。

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2018年は、『希望の森もり大作戦～東北植林編～』で「森の防潮堤」を作る植林のために広葉樹を中心とした育苗と4月には岩沼市の千年希望の丘・9月には石巻市の植樹祭にて、植林ツアーを行いました。また、4月と9月に内モンゴル植林ツアーを実施しました。各ツアーを通してたくさんの人に参加頂き、たくさんの人と力を合わせて楽しみながら「緑」と「希望」を増やす事が出来ました。

活動内容

- 中国内モンゴル植林
- 東北植林プロジェクト
「希望の森モリ大作戦～東北植林編～」
- 間伐プロジェクト
- 一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～



足跡

- 2005年4月 第1回中国内モンゴル植林ツアー
* 2018年までにツアーを計20回開催しました（2018年は4月と9月に開催）。
- 2008年11月 植林事務局をWONDERFUL植林FESTIVALと命名し、新たに事務局を設置。
同時に一円募金プロジェクト開始
* 2018年までに一円ヒーローが1007名となりました。
- 2009年6月 第1回ブラジル植林ツアー開催
- 2009年8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催
* 2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
- 2010年3月 国内植林ツアー開催
* 2017年までに北海道、和歌山、熊本の3箇所と東北植林の植林ツアーを開催しました。
- 2010年4月 国内間伐ツアー開催
* 2015年までに、宮城、静岡、奈良、和歌山、熊本、兵庫の6県で計9回の間伐ツアーを開催しました。
- 2012年1月 東北植林の準備開始
* 9月に『希望の森モリ大作戦～東北植林編～』と名付け、スポンサーや育苗の募集を開始しました。
* 2013年からは、宮城県石巻市で活動している『NPO法人いしのまき環境ネット』様『NPO法人この森』様の協力を頂いて育苗を継続中。
* 2015年は、約2年半育てた苗木2500本を、『岩沼市千年希望の丘植樹祭』にて植樹しました。
2018年までに岩沼市と石巻市で5回の植林ツアーの実施しと、苗木の提供を行いました。
- 2016年2月 一円マンの全国報告会の旅
* 沖縄県から愛知県までの25県を、天ぷら油の廃油で走る車で周り、10年間の報告と一円マンを増やす旅をしました。2017年は、北海道から岐阜県までの22県で植林活動を広める講演をしました。

担当者より

いつも地球に緑を増やすため、未来の子供たちのために応援いただきありがとうございます。

植林ツアーの参加して頂いた方々、マイツリーや一円募金で苗木の育成を支えて頂いた方々、また継続的に活動を支えてくれるマンスリーサポーター (ForstFamily) の方々。みなさまのおかげで、今年も多くの緑を増やすことができました。出逢って頂いたみなさまに笑顔を増やせたことも、非常に嬉しいです。

さて、私がワンフェスに入り、地球に直接希望を届ける活動をさせていただいてから9年が過ぎました。「沙漠緑化の父」と名高い遠山先生という方がいらっちゃって、その弟子である高橋さんと、2009年から沙漠を緑にする志を共にしてきたのですが、高橋さんもそろそろ高齢です。そこで私は決断しました。遠山先生、高橋さんの想いを引き継いで沙漠植林を継続し、その為に動いていきます！！

そのために、宮城県石巻での苗木の育苗（年間）、4月/9月の中国植林、5月/9月の宮城県での植樹ツアーに加え、2019年は数回の中国渡航、国内の間伐の準備も行っていきます。今年も一緒に、ワンダフルな物語を一緒に創っていきましょう！！



かごしマン

植林とは

ワンフェスの想い

ワンフェスでは、世界中のいろんな国の人たちと、笑い楽しみながら世界中を緑だらけにして、未来の子供たちの笑顔を創造します。

この地球には、6万を超えるいろんな種類の木がいる。50mを超える木や太い木。咲かせる花の色も違うし、いろんな形の実を付ける。

そんな木々は、根っこを大地に深く伸ばし地球を一つに全部つながってる。地球と共にひとつなのです。

ワンフェスでは、世界中の国の人たちと、木を植えることでココロを一つにして、世界をフェスティバルにしていきたいと想います。だって、人も地球と共にひとつだから。

100年後・数千年後。人も木々と同じように地球と共にあって、生きることの隣に森がある。

大きな津波がきても森が津波を和らげ、多くの子供たちのいのちを守り、中国では『昔ね、ここは沙漠って呼ばれてたんだ。』って、内モンゴルの人たちが森の中で話してる。

世界中のいろんな国で、子供が走り回る姿を、木陰で大人が眺めてる。

そんなワンダフルワールドを創造します。



植林の意味

ワンフェスでこれまで植えて来た植林は、それぞれ、『なんの為に』が違います。

地球では毎年、九州8県と四国4県を足した面積（約6,000Km²）が砂漠化し、そのうち中国では毎年東京都とほぼ同じ面積（2,460Km²）が砂漠化している。



中国1箇所目

流動砂丘（沙漠が草原や街を飲み込む）を止める為に、沙漠にまっすぐに植林をしてグリーンベルトとして森を育て、沙漠化を止めています。

中国2箇所目

現地の方の雇用と産業と植林が循環することを目的に植林しています。

ブラジルの植林

違法伐採されてることを知り、微力ですが、原生林の森の修復のための植林をしました。

南アフリカ

貧富の差や差別により食事が十分ではない家に、一家に一本の果樹を住民さんと共に植林を行いました。

一国内一

人工林から少しでも自然林に近づけるための植林や、里山が健全な森になるように間伐をしています。

一東日本大震災以降一

将来、来ると予想されてる津波を少しでも和らげるための、森の防潮堤や防潮林のための育苗・植林をしています。



沙漠に森が出来るまで

ワンフェスでは、現在毎年4月と9月に、中国内モンゴルの沙漠で植林活動をしています。

なぜ、沙漠で木を植えるのか？どのようにして沙漠が森になっていくのか？

その仕組みを簡単に説明します。

沙漠では、昼と夜の温度差が約40℃。

そんな過酷な環境では、風がうまれます。

熱いところから、寒いところへ吹く風は、大変強く、森、木、草、花、種...砂までも吹き飛ばします。

吹き飛ばされてしまうと、遮るものがなくなるので、さらに風は強くなる。

そんな悪循環を防ぐ手立てが「植林」です。



植林とは、木を植えること。

木を植えると、少し風が弱まる。

根を張り、地中に潜んでいた水分を貯めてくれる。

水分があると、草が生える。木も、もっと育つ。

木が育つと、影が出来る。風も防いでくれる。

影ができると、温度が下がる。

温度が下がると、風が弱まる。

そして、どんどん大きな森になる。

じきに、花や、動物たちが帰ってくる。

そんな、大きな循環をうみだすために、木を植えています。



植林プロジェクト

どうしたら当たり前前に雨が降る地球を未来の子供達に残せるのだろうか？その答えの一つが植林でした。木を植えると、雲が出て雨が降ります。そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL（以下ワンフェス）」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円玉で世界を緑だらけにしちやおう大作戦」を開始しました。2012年からは東日本大震災の津波で被害のあった福島県から青森県の沿岸部に森の防潮堤を創りたいという想いで、東北で広葉樹の苗木を育て始めました。現在は、石巻に2020年にオープンする国・県・市で創る公園内に植える木や花を育てています。2018年は、一円募金活動・ワンフェスのサポーターさんを募集しました。4月に宮城県岩沼市の千年希望の丘植樹祭・9月に石巻市にて植林ツアーを行い、4月と9月には中国内モンゴルで植林ツアーを行いました。これまでに、3,311名の参加者と518,378本の緑を増やすことができました。（東京ドーム4.5個分）また、日本の森の手入れでは、492名と800本の間伐を行いました。

中国・内モンゴル植林ツアー

2018年4月と9月に、第19回、第20回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。

4月のツアーでは、参加者は少なかったが植林に熱い仲間が集まり、一人当たりで今までにない本数を植林できました。

9月のツアーは記念すべき20回目の植林ツアーで、現地の中学生30名と一緒に植林を行う事が出来て、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていこう気持ちを共有する事が出来ました。

沙漠に草原が広がり、昆虫や爬虫類だけでなく野鳥も帰ってきて、鳥の鳴き声や虫の姿をたくさん見る事が出来ました。

【第19回：ツアー参加者9名。ポプラ700本植林】

【第20回：ツアー参加者33名+中国の子供たち30名。ポプラ1000本植林
マイツリー の収益からさらに5000本のスナナツメを植林】



※この中国植林は、「(公社) 国土緑化推進機構」の「緑の募金」から一部支援をいただいています。

一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して、「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」、「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える！」という「一円玉＝緑」の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになろう！という思いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び募集しました。

【2018年の実績 登録人数：7人（チーム） 募金額：85,868円】

【2018年までの累計 登録人数：1014人（チーム） 募金額：9,516,631円】

キッズエールプロジェクト

「もっと子どもたちに、木を植えることを体感してほしい」「希望あふれる地球を感じてほしい」

という思いから、子どもたちが参加するハードルを少しでも低くしたいということでスタートしました。沙漠に木を植えたい若者の募集と同時に、「自分は行けないけど、子ども（若者）たちに植林や間伐を体験してほしい！！」「植林に来ている大人たちと出会ってほしい！」とさせていただきの方をつなぐプロジェクトです。

今回は、2人のキッズが申し込みをしてくれました。

一人目は、東啓斗くん9歳の男の子、『この植林ツアーのことを知って、もしかしたらゴミ拾いと同じで、疲れるし大変なのかもしれないけど、やっていてだんだん楽しくなっていくんじゃないかと思いました。それを僕も、どうしてもやってみたくて思いました。知らない人達と一緒に旅をするということと、バリのような「〇〇をする」ついでにゴミ拾いをする、ではなく、「木を植えることを目的にして旅に出る」ということが、自分の人生にすごい経験になると思うし、とても素晴らしいと思います。』こんな想いで植林に行くことを決めてくれました。

二人目は、高橋美土ちゃん6歳の女の子。先天性の脳の障害で生まれており、口で話したり、歩くことはできません。

昨年、指談という、指で平仮名を書いて伝えるという方法でコミュニケーションがとれるようになりました。

そこで話してくれたこと。「楽しいこと、おいしいものじゃないと、人はよくならない」というのが彼女の信条で、色々なことにチャレンジしています。美土ちゃんは、生まれる前のことを話すことがあり、植林をしているお母さんを見て「この人をお母さんにしようと決めた」という、植林がしたいというのはずっと語っていた、美土ちゃんの夢。

この二人の想いに賛同し17名の方に応援いただき、希望の全額をサポートできて参加することができました。



あなたの木を沙漠に植える『♪マイツリー♪』プロジェクト

2013年、ワンフェスでは中国の現地に植林したいけど、今回はどうしても行けない！という方へ日本にいながら一緒に緑を増やせる企画『my tree』はじめました。

植林には行けないけど、何かの形で応援したいという方や地球を癒したい！という方など、家族やカップルなどプレゼントとして沙漠に木を植えるプロジェクトです。

2018年は、延べ423名が参加いただき、1394本のマイツリーを植樹しさらに、収益で5000本の苗木を沙漠に植樹する予定にしています。これまでに、延べ1106名の方にお申し込みいただき、11135本の苗木を植林しました。



宮城植林

2018年4月21日は、東日本大震災後に活動拠点としてご縁を頂いた宮城県で、2012年から育てている苗木を植樹する植樹ツアーを開催しました。

植樹祭当日は、岩沼市主催の「第6回 岩沼市希望の丘植樹祭」に団体枠で植樹に参加し、240本の植樹をしました。

また、9月23日には、石巻市で植樹祭を開催し607本を提供し植樹しました。

【希望の森もり植林ツアー2018 in みやぎ：参加者38名】

東北植林プロジェクト「希望の森もり大作戦～東北植林編～」

2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。有害な物を省いた瓦礫を使って土手を築き、深根性・直根性の常緑広葉樹を混植・密植で植林する計画です。森の防潮堤は防潮堤本来の役割を果たすだけでなく、津波が防潮堤を乗り越えた場合でも、津波の速度を和らげて人や家屋・家財の流出を防ぎ、被害を最小限に抑えられる事を知りました。

ワンフェスはこのプロジェクトに賛同し、2012年1月から東北植林の準備を始め、9月には「希望の森もり大作戦～東北植林編～」として活動しています。樹木の種を拾い、樹種は現在21種類で常時15,000本の、苗木を育てています。

2018年は、国・県・市で計画している『南浜津波復興記念公園』内に育苗拠点を移し、防潮堤の役割もある公園の緑化に取り組みました。また、石巻の『心の復興助成金』を預かり復興住宅の方が植物に触れることで未来に繋げる活動を、地元の4人のスタッフと共に行いました。

※この石巻での育苗は、「石巻市 こころの復興助成金」から一部支援をいただいています。

間伐プロジェクト

今、日本の森はほったらかしにされて元気が無くなっている事、それが原因で大雨の時に土砂崩れなどの災害が起きている事、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法としてNPO法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。

間伐ツアーでは、NPO法人「森の蘇り」の指導のもと、日本の森、世界の森の現状と間伐の基礎を学び、実際に森に入ってきたら樹間伐を実践しています。

きらめ樹間伐は、チェーンソーや重機を使わず、ノコギリだけで楽しく間伐する事が出来るため、子供からおじいさん、おばあさんまで、幅広い年齢の方々に参加して頂き、たくさんの子供達の笑い声が森の中に響きます。また、間伐ツアーは植林ツアー同様、大地と人が繋がりが全国各地の参加者が繋がるきっかけとなり地元へ帰ってからの最初の一步に繋がっています。今後も、より多くの人に日本の森・世界の森の現状を知ってもらい、森を守り、人も元気になるプロジェクトを進めていきます。

※ 2018年の間伐ツアーは実施しておりません。

参加者の声

キッズエール参加者の感想

●東啓斗（あずまけいと）

ぼくの、今回の植林ツアーは、期待以上の物で、びっくりしました。

まず、もしかしたら関西空こう組がこれないかもしれないと言うアクシデントがあって、大へんだったけど、すぐ高橋さんが動いてくれて、みんなでいく事ができました。1日目、2日目の初期は、少し休みがちになってしまったけど、5、6本しっかり植える事ができました、でも、3日目、4日目の本々的な砂ぼくでの植林は、すごくバリ掃除の時よりも暑く、黄がのえいきょうでほったらすぐ水が出る所と水はあまり出ないけど砂がどンドン落ちてくる所があって、どちらもやりづらかったです。でも、自分ではせいっぱいていねいに、でも力強い木が育つように、がんばって植える事ができて、満足する事ができました。ワンフェスのみなさん、かごしマン、キッズエールでぼくの事をおうえんしてくれたみなさん、いろいろな形、方法でおうえんしてくれたみなさん、ぼくといっぱいあそんでくれて、いっしょに植林をしてくれた参加者のみんな、本当にありがとうございました。

●高橋 美土（たかはしみと）

《植林おわたつ翌日にかいた詩》
りんごよりもおいしくなりました
りんごは困ったひとを助けます
いいことはりんごの甘さです
りんごがおしえてくれます
のんびりしてください

ひかりになれてうれしいです
ひかりになれてうれしいです
ひかりになれてうれしいです

帰りの飛行機中で、「りんごのようにおいしくなりました。
いのちのひかりがきれい。みんなひかっています。」
と植林仲間のみんなをみてニコニコしていました。

植林ツアー参加者の感想

ツアーに行く前は、内モンゴルという遠い場所、自分が住んでいる日本とは"別の"大地に木を植えるっていう意識やったけど、植林ツアーで実際に木を植えたら、国も違うし遠い場所ではあるけど、木の根っこから繋がってる"同じ"大地に木を植えてるんだという意識が変わりました。数年前に植えた木が沙漠を実際に留めている姿はほんまに感動しました！今回が初参加だったので、参加者のほとんどが初対面の方でしたが、6日間のツアーを通して、心から一緒に笑いあえる関係になれたと思っています！たった6日間やったけど、それだけ濃い時間を過ごしました！ありがとうございました！【20代 女性】

一年前にこのツアーに参加する事を決めた直後、ある人に「自然は人が操作するものじゃない」と言われたことがずっと心に引っかかっていた。ツアーが近づくにつれ周りからの心無い言葉もあり、自分の在り方についてもプレプレで、ツアーに参加することも迷いながらの参加だった。参加してみて、現地の空気に触れたこと・植林をすることの根本の話・環境や現地の方の生活の話が聞けて、迷いがなくなつたし、何より自分がいいと思っていることを、ただ楽しむ。それが勝手に未来に繋がっていると思うと人生って本当にシンプルだなと思えた。ツアー後は、自分の芯がしっかりした感じ。日常での行動に迷いがなくなつたし、よりいっそう自分が好きになつた。行く前は植林をしに行くと思っていたけど、全然違って、ひたすら自分と向き合う旅でした。心無い言葉も必要で、それがなかったらわたしはここまで自分と向き合えなかったから、やっぱりツアー参加を決めた瞬間からわたしのツアーは始まっていたんだなと思う。このツアーを続けてくださっていること、見えないうちで関わってくださっている方々に感謝です。また必ず参加します。ありがとうございました。【30代 女性】



挑戦プロジェクト

TEAM A ☆ H ☆ O

「 誰かの挑戦が、誰かの勇気につながる 」
「 誰かの挑戦が、誰かの幸せにつながる 」

できるかできないかは、わからない。けれど挑戦してみたい。

私たちの挑戦自体は、きっかけを作るための小さな一歩です。
勇気を持って始め、前向きに挑み続ける姿を発信し続けることで、
誰かが勇気を出し、新たな一歩を踏み出すきっかけになる。そう信じています。

『大切なのは続けること』

ワクワクすることや目標が一人ひとり違うように、立ちはだかる壁も、それぞれ違います。
それでも失敗しても諦めなければ、夢は実現できます。

自分たちの挑戦が、誰かの喜びや幸せにつながることをイメージし
笑い楽しみながら、チームで挑戦を続けています。

活動内容

- 海外の過酷な
アドベンチャーレースにチームで挑戦
- 踊り / 歌 に挑戦
- 映画製作に挑戦



足跡

- | | | |
|-------|-----|---|
| 2013年 | 12月 | Team aho を結成 |
| 2014年 | 4月 | 世界でもっとも過酷なレースの一つ”モロッコサハラマラソン”
(1週間 250キロ) に日本人初チームで初出場 |
| 2014年 | 10月 | 世界でもっとも過酷な耐久レース”ブラジル・ジャングルマラソン”
(1週間 275キロ) を日本人初チーム (うち1名女性) で出場しチーム部門で優勝 |
| 2015年 | 10月 | 世界でもっとも過酷と言われる”南米チリアタカマ砂漠マラソン”にチーム6名で出場
チーム部門2位、特別賞の「スピリットアワード」を受賞 |
| 2016年 | 4月 | NPO 法人 MAKE THE HEAVEN 理事長に就任に伴い、
名前を Team aho から TEAM A ☆ H ☆ O に変更 |
| | 10月 | 世界でもっとも過酷と言われる”南米チリ・アタカマ砂漠マラソン”に
チーム10名で出場。チーム部門1位優勝 |
| 2017年 | 11月 | ペルー・イカ砂漠マラソン (250キロ) にチーム19名で出場。
9名完走 10名タイムアウト |
| 2018年 | 4月 | 「踊りに挑戦」チーム17名@日本橋三井ホール「世界一周学校文化祭」にて出演 / 初披露
協力: SUGA IZANAI |
| | 12月 | 第2弾「踊りに挑戦&合唱に初挑戦」踊り9名 / 合唱10名「希望フェスティバル」にて披露
協力: SUGA IZANAI ・ human note |

担当者より

いつもありがとうございます。こういちマンモスです。

新しい挑戦として踊りと合唱に挑みました！！

正直、人前で真面目に踊るなんて。そんなことやったことがない自分は
心臓がドキドキしていたのですが、一緒に挑戦してくれるメンバーがいてく
れることがとても心強くて本番、めちゃくちゃ楽しかった。

踊り終えた時、合唱を歌い終えた時、なんとも言えない嬉しい気持ちでいっ
ぱいで、少し経ってから、もう踊らないんだ、歌わないんだって思って。

寂しくなりました。笑

皆さん、挑戦は今まで見たことがない景色に出会えます。

だから1回やったらもう終わりではなく、これからが始まりだと思えます。

今読んで「ニヤッ」としたあなた。

そう、今度はあなたの番ですよーーーー！！

一緒に挑戦できることを楽しみにしてます。(^ ω ^)

ハッピー



こういちマンモス

挑戦プロジェクトとは

挑戦への思い

2013年に結成した挑戦チーム TEAM A ☆ H ☆ O を結成しました。

- A あかるく
- ☆
- H 他の誰かを
- ☆
- O 応援する 僕たちの挑戦で！

「誰かの挑戦が誰かの勇気につながる」「誰かの挑戦が誰かの幸せにつながる」

できるできないかは、わからない。けれど挑戦してみたい。私たちの挑戦自体は、きっかけを作るための小さいな一歩です。勇気を持って始め、前向きに挑み続ける姿を発信し続けることで、誰かが勇気を出し、新たな一歩を踏み出すきっかけになる。そう信じています。大切なのは続けること。

ワクワクすることや目標が一人ひとり違うように、立ち足はかかる壁もそれぞれ違います。それでも失敗しても諦めなければ、夢は実現します。自分たちの挑戦が、誰かの喜びや幸せにつながることをイメージし笑い楽しみながら、チームで挑戦を続けています。

チームルールで決まっているのは「ワクワクすることに挑戦する」ということだけです。

チャレンジごとに、メンバーは変わり、目標に向かって成長していきます。大きな目標は挑戦するということは、地平線の向こうまで広がる畑に種をまき続けることに似ています。時に無茶、無謀だと思われることもありますがそれでも楽しみながら、笑顔を絶やさず進み続けます。笑顔なき大地には、喜びも感動も芽を出すことはありません。

果てしない種まきも、いつか花が咲き、収穫を夢見るからこそ続けることができ、終わりが見えてきます。私たちが挑戦する姿・そこに至るまでの準備、苦勞、学びを SNS などで発信することで、多くの人たちと喜びや葛藤、挑戦に向けた熱量を共有します。

「みんなでやれば、出来ない事なんて無い」

このメッセージを、ユーモアを交えて発信し、多くの人たちと感動を共有する事で、新たな挑戦の後押しにつなげていきます。私たちが一歩を踏み出したことで、誰かが何かを考え、行動を起こす「きっかけの種まき」を創っていきます。

アドベンチャーレースに挑戦

2018年、2019年3月3日～9日ニュージーランドで開催される 2019 RACING THE PLANET NEW ZEALAND レースへの挑戦に向けて、挑戦者25名のチーム作りをしました。3ヶ月に1回のペースで全体合宿を行い、月1回の全体ネット会議、3ヶ月に1回はグループ替えをしてメンバーそれぞれが気持ちの共有ができるようなきっかけの場を作りました。



歌 / 踊りに挑戦

第1弾 踊りに挑戦

2018年はあたらしい挑戦のきっかけの場を広げるため、アドベンチャーレースのほかによりたくさんの方が参加できる企画として【踊りに挑戦】【歌に挑戦】を開催しました。

プロの先生にご指導をいただきながら3回の合宿を行って、踊りを披露するまでの過程をチームを組んで行いました。

参加者（挑戦者） : 17名

「踊りに挑戦」披露の場：2018年4月 日本橋三井ホールで開催された「世界一周学校文化祭イベント」



第2弾 踊りに挑戦 / そして新企画 歌 = 合唱に挑戦

挑戦することで、新しい自分と出逢い、仲間と繋がり

さらに、挑戦した人たちの姿を見た人たちから「私も挑戦します」など声をいただき誰かの一歩が誰かの勇気や幸せに繋がるきっかけを作ることができました

第1弾 歌に挑戦 : 参加者（挑戦者）：10名

第2弾 踊りに挑戦 : 参加者（挑戦者）9名

「踊りと歌に挑戦」披露の場：2018年12月 MAKE HAPPY 希望フェスティバルイベント



参加者の声

イベント観覧者の声

皆さんのダンス、本当に素晴らしかったです。

魂が動かされ、何と表現したらいいのか分からない感情が生まれました。

ダンスを見て、こんな感覚になったのは、生まれて初めてで、自然と涙がこぼれていました。

踊っている一人一人が常に全力で輝いていて、短い時間だったのに、とても濃い時間を

あの会場にいる方々全員と過ごし共有できたことが、とても嬉しかった。

素敵な時間をありがとうございました。機会があるのならまた皆さんのダンスを見たいです。

「すごい感動して、ずっと泣いていた。

自分も踊りをやっていたから、技術が高いダンサーや、上手な踊りや舞台はたくさん観てきたけど、

みんなの踊りには、ウソがなかった。うまく見せようとか、かっこよくしようとか、そんなのは無くて、とにかくウソのない踊りに感動してずっと泣いていた。

挑戦者の声

第1回、踊りに挑戦。

参加する前、私は人前で踊ることも、踊ってる姿を鏡で見る事も恥ずかしくて、したくありませんでした。だけど、イザナイの先生達の踊りを見て、魂で踊る姿に感動して、恥ずかしい気持ちは薄れていきました。そして、迎えた本番。とにかく、終わってしまう事がさみしい、皆と一緒に造る場が、何より喜びいっぱい、嬉しくて楽しくて、ただそれだけでした。

絶対に次もやるって決めてました。

2回目。最初から、全信頼を置いて、みんなと裕先生の指導を受けれる事がとにかく幸せでした。

そして、裕先生の踊りを見て、本当に感動してしまいました。肉体がある喜び、魂があって、肉体があるからこそ、表現出来る喜びを、私の本能が感じとりました。感動で涙が溢れました。そして、本番。

始まる前から、喜びだけでした。とにかく、嬉しい瞬間を全身で受け取って、そして、放ちました。

この感動をずっと味わっていたい。そんな日々でした。次回も絶対に感動が待っているはずですよ！楽しみにしています！

大西奈津子



「合唱に挑戦して」

今回、合唱に挑戦してみて、振りかってみるとほんとうに自分は、心の底から何かを表現したかったんだと思いました。

人前で1人で歌うことはめったにないけど、歌ってみたいと思ったんです。
音楽は大好きだから。

普段、あたり前の日常生活の中で自分を生きているようで生きてない感覚がいつもどこかにありました。
合唱をしてみてもわかったことは、自分はいかに無難に生きていたかでした。
それが、歌の全てにあらわれました。
きちんと歌おう。ちゃんと歌おう。キレイに歌おう。と

先生から「上手に歌わなくいい。心で歌って。歌詞をイメージして。もっとはじけて。」
と言われても、なかなかできなかつたんです。

その枠を超えることができたのは、一緒にチャレンジした仲間のおかげです。
1人では、けっしてみることもなかった景色を仲間とだったから見ることができました。
新しい景色をみることができたんです。

また表現とは歌うことだけではなく練習も含めてすべてにおいてだったなと終わってみて感じます。
疑問に思っていることを疑問に思っていると言える表現。
一度自分が言った意見をやっぱり違うと思いい言直す表現。
衣装の提案をする表現などなど様々です。

僕は、人と何かを一緒につくりあげるのが凄く苦手なので、実は人と一緒にするというのは、歌うこと以外に僕にとってとても大きなチャレンジでした。

歌を通して自分を表現する喜びを感じました。
歌を通して自分とつながる喜びを感じました。
歌を通して仲間とつながる喜びを感じました。
そして歌を通して仲間と喜びをわかちあえました。

そんな場を作ってくれたこーちゃんや素晴らしい先生方、合唱の仲間
ありがとうの気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

NAO (竹内正直)





感動共有プロジェクト

アミーゴ大作戦

「地球のみんなと happy!!」をキーワードに、人と人、人と自然、人と動物、全てのつながりを大切にして、みんなが友達（アミーゴ）になって一人では難しいと思うことも、みんなで助け合い、支え合って、みんなで喜び合いながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

MAKE THE HEAVEN(現 MAKE HAPPY)の団体立ち上げのきっかけは、2003年12月に起きたイランの大地震の時に、前理事長を含む仲間10名で支援に行ったことでした。それ以降、カンボジア支援、フィリピン台風支援などの海外支援を実施し、最初は「支援」という気持ちで関わる中で、学ぶこと、喜びを共有する事で支援というカタチを超えてきました。

これからさらに、つながりを大切にして、もっと世界中の人たちと友達になりたい！ みんなとさらに喜び合っていきたい！という想いからこのプロジェクトが誕生しました。素敵な活動をしているたくさんの仲間と手を繋いで、それぞれの役割を果たしながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

活動内容

- 映画上映
- ビーチクリーンアップ プロジェクト
- 会員限定企画 伊勢神宮参拝 / 富士登山
- 日本縦断

足跡

- 2014年 1月 フィリピンレイテ島巨大台風災害支援開始 * 2015年まで計5回のスタディーツアー開催
- 2014年 11月 フィリピン台風被災一周忌慰霊祭竹あかり装飾支援
- 2015年 6月 フィリピン MY RIDE に土地の購入、コミュニティスペース建設支援、ペディキャブ支援実施
- 2016年 12月 第1回 ビーチクリーンアッププロジェクト in 香港 (NGO OPEN EARTH と共同主催)
- 2017年 5月 ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』上映ツアー
* 11会場 来場者数 のべ1000人以上
- 6月 第2回 ビーチクリーンアッププロジェクト in 香港 開催
7月 ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』貸し出し開始
7月 第2回 メイク会員限定富士登山
9月 日本縦断ツアー 53日間
- 2018年 5月 ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』1周年記念上映ツアー
国内外50ヶ所以上で開催

上映ツアー

ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』上映会 国内 / 外で 50ヶ所以上 開催

【開催場所】

- アメリカ
- 北海道、新潟、青森、宮城、群馬、神奈川、東京、栃木、福井、金沢、愛知、長野、京都、兵庫、三重、大阪、広島、岡山、長崎、熊本、鹿児島、沖縄
- 企業
- 学校

ドキュメンタリー映画「LIFE TREASURE」



上映ツアー

ドキュメンタリー映画『LIFE TREASURE』の上映会と製作総指揮を務めたこういちマンモスのトークライブのツアーを行いました。アメリカ、北海道、新潟、青森、宮城、群馬、神奈川、東京、栃木、福井、金沢、愛知、長野、京都、兵庫、三重、大阪、広島、岡山、長崎、熊本、鹿児島、沖縄、企業、学校など、50カ所以上の場所でたくさんの方に希望を届けることができました。

南米チリ・アタカマ砂漠マラソン。標高3200m。気温40度。荷物を背負い250km走る。

「世界で最も過酷と言われるレース」

参加費や渡航費、装備代など1人約100万円の費用がかかる。

参加するメンバーは、全員ど素人。チーム名は、「TEAM A ☆ H ☆ O」

「生まれつき目に障害をもつメンバー、直前に事故で怪我をしたメンバー、小さい子供達がいる母親、経営者など。。。」

「そこまでして、なんのために走るのか？」

自分との絆を取り戻すために、やりたいことを我慢し続けてきた人生を変えるために、

難病に挑む家族に大切なメッセージを伝えるために、

本当の気持ちから逃げてきた自分自身と向き合うために。。。

それぞれのゆずれない想いを胸に、過酷な挑戦に挑んだドキュメンタリー映画

製作総指揮 こういちマンモス

監督 / 撮影 小泉雅央

2017年5月3日初上映

作品上映時間70分

2019年 DVD 発売開始



ご来場者様からの感想

- 映画にすごく勇気もらいました！自分のためにもだけど、誰かのために挑戦することが力になるって仲間のチカラのすごさを思い知りました。素敵な映画をありがとうございました。
- 今の時代に大事な大事な大事なものを映画から感じました。つながり、生命、想いの共有、ゴールまで皆を連れていってくれたものが何か分かりました。言葉では上手く表現できないけど、一番近い言葉で言うと愛かかって思います。
- 人生の宝物を見つけた気がしました。改めて自分の気持ちを確認しました。
- すごく感動しました。号泣でした。健康で体力があるスポーツマンだらけのチームじゃなくて、10人のメンバー1人1人が本当に挑戦していて、自分だけのことじゃなく、限界のメンバーをフォローしようとやれることをしてみんなで助け合っている姿に大切なものを教えてもらいました。ありがとうございました。



災害復興支援プロジェクト

め組 JAPAN

2011年3月11日の東日本大震災を受け、全国から過去に3度結成された緊急災害復興支援チーム「め組」の再結成を望む声を頂き、東日本大震災復興支援チーム「め組 JAPAN」を発足しました。当プロジェクトは、世界中で災害が起こり生きる気力が小さくなっている人に、「一人じゃないです！みんながついてます！」というメッセージを届けながら、希望の種を一人一人の心の中に植えて行きます。

め組 JAPAN の活動で大切にしている事は「つながり」です。東北では2013年から、め組 JAPAN の活動からワンフェスへと引き継ぎ『希望の森もり大作戦～東北植林編～』に絞って活動を継続しています。

また、2018年6月28日～7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で記録された集中豪雨（平成30年7月豪雨）では、8日より岡山→愛媛→広島→岡山と巡り、ご縁をいただき岡山県真備で活動することを決め、災害救援支援を開始しました。団体の枠を超えるボランティアビレッジの運営を10月末まで行い、11月からはめ組ん家（ボランティアの宿泊所）の運営と共に活動を行いました。

活動内容

●緊急支援 及び 復興支援活動

足跡

2011年3月14日	め組 JAPAN 発足（東日本大震災）災害支援
2011年3月16日	め組 JAPAN 先発隊が宮城県石巻市に到着し物資配給や炊き出し、泥出し、クルー（ボランティア）の受け入れなどの支援活動を順次開始
2011年3月20日	石巻災害復興支援協議会（旧：石巻支援連絡会）に加入
2011年5月	希望の種まきイベント「SEED's OF HOPE」を開催
2011年6月	子供達への支援や仮設住宅の訪問など、寄り添い活動開始
2011年7月	被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催
2012年3月11日	追悼式典「祈りの灯り希望の灯り」、尾崎の慰霊祭の運営サポート
2012年4月	南浜ひまわりプロジェクト開始
2012年10月	おだってぱりいで、開業届提出
2012年12月	全国、世界各地から届いた 795 枚のクリスマスカードを仮設住宅、在宅の方々へお届け
2013年2月	め組 JAPAN の仲間達が子供支援団体「NPO 法人こども∞（無限）感ばにー」を発足
2013年4月	活動の中心を寄り添い支援と、WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL との共同企画「希望の森もり大作戦～東北植林編～」に移行
2013年6～9月	西日本を中心にめ組 JAPAN が行ってきた復興支援の報告会ツアーを開催
2014年8月22日	め組 JAPAN 広島・広島たすけ隊発足（平成 26 年 8 月豪雨）災害支援
2014年8月23日	ボランティアの募集・支援金の受付開始
2014年8月25日	長期滞在ボランティアの受け入れ開始
2014年8月30日	石巻よりめ組 JAPAN スタッフが広島入り
9月末まで	上記活動を継続、広島たすけ隊へ引き継ぎ完了
2016年4月22日	め組 JAPAN 熊本 発足 一般社団法人チーム熊本のサポート開始（熊本地震）災害支援
2016年4月23日	ボランティアの受け入れ開始
2016年4月24日	若葉小学校（避難所）のサポート開始（～8月26日）
2016年4月28日	夢まくらプロジェクト開始
	くまモンリュックに元気になるグッズ詰め込んで、子供たちに配布したり、次の災害に備えて200名分の食料が賄える「炊き出しセット」10台支援しました。
2016年6月2日	引っ越し支援開始（～10月16日）
2016年6月4日	くまモンカフェ 開始（避難所・～8月）
2016年7月28日	くまモンカフェ 開始（仮設住宅）
2017年2月1日	くまモンカフェに活動を絞り活動を継続
2017年9月30日	熊本の支援を現地リーダーが独立することで活動を引き継ぎ完了
2018年7月8日	『平成30年7月豪雨』により、め組 JAPAN 岡山を発足。（平成30年7月豪雨）災害支援
2018年7月16日	ボランティア受け入れ開始
2018年7月20日	ボランティアビレッジ「真備 美しい森」の運営開始
2018年8月	地元のお母さんたちによる、食事のお手伝い開始
	エンジェル班にて、食事が困難な方に、弁当の配達も開始。
2018年10月20日	真備の良御崎神社にて復興祈願祭を主催協力
2018年10月31日	ボランティアビレッジからめ組ん家の運営へ。

『この事業は「平成30年7月豪雨」災害に対して、赤い羽根共同募金会から一部支援をいただいています。』

平成 30 年 7 月 豪雨

平成 30 年 7 月豪雨とは、2018 年（平成 30 年）6 月 28 日から 7 月 8 日にかけて、西日本を中心に北海道や中部地方を含む全国的に広い範囲で記録された台風 7 号および梅雨前線等の影響による集中豪雨。同年 7 月 9 日に気象庁が命名した

西日本を中心に、河川の氾濫や洪水、土砂災害などの被害が発生している。

以下は 2018 年 11 月 6 日 10 時現在の消防庁による被害状況の集計である（7 月下旬の台風 12 号による被害を含む）

- ・死者 224 人
- ・行方不明者 8 人
- ・負傷者 459 人（重傷 113 人、軽傷 343 人、程度不明 3 人）
- ・住家の全壊 6758 棟、半壊 1 万 0878 棟、一部破損 3917 棟、床上浸水 8567 棟、床下浸水 2 万 1913 棟
- ・公共建物の被害 22 棟、その他の非住家被害 281 棟

死者が 113 人と最多の広島県では、県の調べによると 20 市町で計 500 力以上の土砂災害が起きたと確認された。

岡山県倉敷市真備町地区では、広範囲が浸水した結果、同県での死者 61 人のうち 51 人が犠牲になった。26 人が死亡した愛媛県では肱川がダムの大量放流後に氾濫。大洲、西予両市では住宅が浸水するなどして 9 人が亡くなった。

岡山県総社市では冠水した道路で交通規制に当たっていた警備員らが高梁川に流されるなど、4 人が死亡した。総社市内では昭和地区などの浸水と同市下原のアルミ工場爆発事故が重なり、被災家屋は 968 棟に上った。

め組 JAPAN 始動

- 7 月 7 日 この災害においてめ組 JAPAN 岡山を立ち上げる事を決める
●被害範囲が広範囲の為、現地の状況や他団体と連携を取りどこに拠点を置くかを決める為に情報を収集
- 7 月 8 日 岡山県岡山市東区西平島地区視察
●平島団地の 4 軒のお宅の浸水で使用できなくなった家財や畳の搬出を地元団体と共に活動参加
- 7 月 9 日 愛媛県西予市野村地区視察
●地元の住民からの情報により現地の視察と西予市野村中学校にお水 20 ケースを届ける
- 7 月 10 日 広島県安芸郡海田町、安芸郡坂町視察
●社協から現状を聞き現地視察
- 7 月 11 日 広島県安芸郡坂町泥出し作業 安芸区畑賀地区現地調査同行
●地元団体の活動に参加、家の敷地に溜まった泥の撤去、地元団体の現地視察への同行



7月12日岡山県倉敷市真備町へ

●倉敷市真備町の被害状況

2018年6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に広範囲で記録的集中豪雨発生。

7月6日	午後10時	倉敷市に大雨特別警報発令
	午後11時45分	真備町地区全域に避難勧告発表
7月7日	午前1時30分	小田川の南側
	午前1時34分頃	北側に避難指示
	午前6時52分頃	小田川との合流地点近くの高馬川で堤防決壊を確認
		小田川の堤防決壊を確認

- 真備町の4分の1にあたる1200ヘクタールが浸水 -
- 全壊、半壊合わせ約5,000棟が2階以上まで浸水する被害にあった -
- 深夜に避難指示が発表された為、高齢者を中心に逃げ遅れた方々が被害にあった -

【倉敷市 死者52名(うち真備町51名) 全壊 4,274棟 / 半壊 1,064棟 / 一部損壊 516棟】

平成最悪の水害と言われる災害となった

- 3県8地区を視察し支援の抜けや偏りのないよう被害状況や地元の復旧支援に関わる団体を確認し倉敷市真備町に入る。倉敷市社会福祉協議会からボランティアビレッジの開設の提案があり岡山県倉敷市真備町に拠点を置く事を決める

ボランティアビレッジ開設

『真備 美しい森ボランティアビレッジ～Borderless Village for volunteers～』

7月20日のボランティアビレッジ 開設から10月21日までの3ヶ月間、め組 JAPAN で活動するボランティアさんだけでなく、災害ボランティアに関わる全てのボランティアさんの受け入れをおこないました。

3ヶ月間のビレッジ 総利用者数は1,188名。

ボランティアビレッジ では利用の受け入れだけでなく、エンジェル班によるボランティアへの食事の提供も行いました。

エンジェル班には真備で被災した地元のお母さんたちも「真備に来てくれるボランティアさんのために何かしたい」と言っていただき、ご協力いただいたおかげで提供した食事の総数は約1,500食。

美味しく、心温まる食事はボランティアビレッジ の名物に、そしてボランティアさんの楽しみになりました。

みなし仮設住宅(借り上げ仮設)や避難所へ移らず浸水を免れた2階で暮らす被災者さんが「キッチンがなくて食事を作るのに困っている」との声が寄せられ、2階で過ごす被災者さんの為にエンジェル班がお弁当を作り家まで届けにいきました。ビレッジオープンの期間中に約200食の弁当を配りました。



それいけ！軽トラ団

歩道や空き地、家の前に無数に積み上げられた家財の山。車も水に浸かり家財の搬出がしたくても出来ない現状が広がっていました。「災害ごみと呼ばれることになった住民さんの大切な思い出と宝物を、軽トラで駆けつけ、みんなで楽しみながら廃材の山を運び出し、新たな一歩を踏み出すキッカケ創りとなるように」と【それいけ！！軽トラ団】を結成。

住民さんだけでは片付けきれなかった家財の山を次々に片付けていき、住民さんのお家の周りだけでなく心もスッキリ。住民さんも肩の荷が下りたようで表情も明るくなりました。それいけ！軽トラ団の活動を継続して行うことで町が元ある風景に近づき町も明るくなりました。



被災家屋の清掃作業

今回の災害において2階部分までの浸水被害にあった家屋も多く、被災家屋に対し解体を希望されている方には家屋内の全ての家財の撤去、運び出しを行いました。

被災家屋のリフォームを希望されている方に対しては、浸水してしまった所は汚泥水が染み込み臭いだけでなくカビが生えやすく家屋の劣化につながるため、浸水した部分の天井、壁、床等を撤去し、柱や梁、再利用する壁や天井などの下地材1本1本を丁寧に洗浄し磨き上げカビや臭いの発生を抑えていきます。こうすることで家屋の保全だけでなくリフォームにかかる費用も抑えることができます。

技術を伴う清掃作業を行うにあたり家主の意向を伺い、リフォーム業者が決まっている場合には家主とリフォーム業者、当団体とで打ち合わせをし、住民の方の声に寄り添い、そして、今後入られるリフォーム業者の方が気持ち良く作業ができるよう今までの経験を活かし、専門の方から知識を学び、住民さんと未来を、住民さんとリフォーム業者の方への架け橋になれるよう作業に取り組みました。

【12月末時点での家財出し・技術系の作業件数 全体 71 件完了】

【ボランティア活動人数 のべ2,085 人】



10月20日 良御崎神社復興祈願祭

め組 JAPAN のサテライトとして使用させていただいている川辺地区にある良御崎神社。その良御崎神社では毎年10月に収穫の祈願祭が行われていましたが、今年は水害のため中止が決まっていました。

しかし、神社総代からは「今回の水害でみんな何もかも無くなった。だから復興を祈願してお祭りのようなものができれば・・・」と相談を受けていました。また、川辺地区の住民さんは、地区内のほぼ全てのお家が浸水し、みなし仮設や仮設住宅などへ移りバラバラになってしまったため、集える機会も場所もなくなってしまいました。

それであれば、子どもも大人も楽しめる場所を創ろう！との思いから、【良御崎神社復興祈願祭】を企画し開催しました。

例年は地域で『御花代』を集めて、秋季大祭を行なっていましたが、今年は豪雨災害の影響もあり御花代を集めることができませんでした。そこで、ハワイ語で『家族』という意味のある OHANA。この御花代を『OHANA 代』として日本中、世界中が家族だよ！！みんなが家族のように繋がってるよ！！という思いを乗せて、祈願祭の協賛金を集めました。協賛金はテントや発電機などの会場準備費、炊き出しの食材費等で使用させていただきました。

復興祈願祭では、神主による祝詞の他に岡山を中心に活動しているアーティストさんによるライブや外部団体にも協力していただきました。

出店協力団体



【CHIKAKEN】

熊本地震ではチーム熊本を立ち上げ復興活動を行ってきた CHIKAKEN に竹に穴を開けて灯りを灯す竹あかりで境内を飾り演出していただきました。熊本を中心に活動を広げている CHIKAKEN の竹あかり。そして真備の特産品でもある竹。その竹が繋ぐ灯りが復興の希望の灯りとなり祈願祭を素敵に彩りました。

【岡山大雨水害支援組合 鬼ブリティ】

鬼ブリティは発災当初から避難所で炊き出しを続けており、このお祭りでは焼きそばの振る舞いの他にステージのブックング、チラシの作成など祈願祭の運営を大きく支えていただきました。

【和菜食堂】

ボランティアビレッジの夜ご飯を作りに来ていただいていた岡山県和気町にある和菜食堂の則子さんと岡山市平島地区や真備町で復興支援活動を行っている NGO チームはるはるによる焼きさんまと豚汁の振舞い。本当に豪華な振舞いとなり住民さんも心から喜ばれていました。

【emu project】

祈願祭の1週間前に声をかけたにも関わらず参加を決めていただき、兵庫県明石からタココロッケ、唐揚げ、豚汁、フライドポテト、フランクフルトを振舞っていただきました。真備町のお母さんたちや子供たちのお手伝いもあり温かく明るいチームで祈願祭を盛り上げていただきました。

【川崎医療福祉大学】

地元倉敷市にある川崎医療福祉大学の学生有志による魚釣り・射的・輪投げの催し物。地元の子供達は久しぶりに逢う友達と遊び境内で走り回り、大人たちもご近所さんと話をする機会ができた笑顔と喜びが溢れています。

【ヘルピングハンズ】

普段からめ組 JAPAN での活動に参加していただいているヘルピングハンズによるクッキー・ジュースの提供していただきました。

【災害 NPO 旅商人】

発災当初から真備町で活動している災害 NPO 旅商人によるコーヒー・みかんジュースの振舞いをしていただきました。

【岡山コープ】

ガラポン抽選会を開催していただき景品としてお菓子や、洗剤などを配っていただきました。

祈願祭をやると決めてから12日間という短い準備期間で開催し、住民さんにたくさん喜びのお声と感謝の言葉をいただけたのは協力していただいた沢山の団体や支援していただいた皆様のおかげです。

10月22日「め組ん家」に拠点移動

10月22日 真備町内に【め組ん家】として拠点を移動

約3ヶ月間利用してきた真備美しい森から宿泊の拠点を真備町市場へ移動。

10月27日 め組 JAPAN、幡ヶ谷再生大学、鬼プリティ共同主催 MAN WITH A MISSION トーキョータナカによるハンバーガーの振舞い

地元の方や真備で活動しているボランティアさんにも楽しんでもらおうと MAN WITH A MISSION のトーキョータナカさんが鬼プリティのハンバーガーの振舞いを届けてくださいました。ビレッジで夜ご飯をずっと作りに来てくれた地元のお母さん達も来ていただき本当に楽しく素敵な時間になりました。

11月16日 ~ 18日 MAN WITH A MISSION 甲子園公演の復興支援ブース出展 in 神戸 KIITO

MAN WITH A MISSION の復興支援ブースに鬼プリティとの共同でブース出展。
発災当時の状況や日々の活動写真の展示と募金活動と併せて真備町で行う冬服配布時に住民さんへお渡しするメッセージを集めました。ご協力頂き集まったメッセージカードは約1,000枚。皆さまからお預かりした募金額は109,585円でした。

11月21日 住まいるネット真備店にてお茶会開催

発災後から今まで入ってきたお家の住民さんにお声をかけてお茶会を開催しました。

お友達同士でご参加いただいた住民さんやご近所同士で顔見知りの住民さんの「久しぶり!!」や「最近どうしてたの??」と笑顔でお話する姿、この日に初めて顔を合わせた間柄だからこそできる発災後から今までのご自身やお家のお話をされる方……。

みんな様々な状況の中、そして色々な心情を抱えつつ、ただひとつ共通している点は「め組 JAPAN がお家の復旧作業に入ったこと」。

みなさん口々に「うちはめ組さんに入ってもらってこんなに素敵になった。」や「め組さんのおかげでリフォームする気になったんよ」「今日久しぶりに人と逢って話せる機会を作ってくれてありがとう」や「本当に楽しかった。また開催してね!」とたくさんの喜びの感想を聞いて私たちまで嬉しいお茶会となりました。

11月23日 川辺地区川辺小学校にて UNIQLO、株式会社アダストリア (グローバルワーク、ローリーズファーム等)の冬服1777点配布

被災家屋の1階が浸水し場所によっては2階まで浸かった被災者も多く、冬服を持っていない住民さんばかりでした。そんな住民さんにどうにかして暖かく冬を越せる応援が出来ないか?というボランティアさんから声が上がり企業様に提供していただけないかと相談することになりました。

20社のアパレル関係の会社に直接連絡し、最終的に、『ユニクロの株式会社ファーストリテイリング』さまと『株式会社アダストリア』さまから冬服をご提供いただきました。

私たちはただ、冬服配布をするだけで終わらせたくない!!心のこもった冬服の提供をしたい!!
そんな想いでいたところ MAN WITH A MISSION の災害復興支援ブース出展のお誘いをいただき来場された方々からメッセージを書いてもらい、そこで集めたメッセージカードをお洋服等に取り付け配布。
モノの提供ではなく、想いの提供を心掛けたことでたくさんの住民さんから喜びと感謝の声が寄せられました。

12月23日 箕面ユネスコ協会たこ焼き振る舞いアテンド

9月から月1回ペースでボランティア活動にご参加いただいている【箕面ユネスコ協会】さまからお話しをいただき、住民さんへのたこ焼きの振舞いのアテンドを行いました。

雨もパラつく寒い日でしたが、め組 JAPAN のボランティアさんはクリスマスも近かったのでサンタ帽を被って振る舞いのお手伝い。

住民さんが「家にもサンタさんがやってきてくれた!!」「このたこ焼き美味しい~!!本場のたこ焼きはやっぱ美味しいね!」「たこ焼きがアツアツだから心も身体も暖かくなるね」と大喜びしていただき、クリスマスらしい楽しい雰囲気でお茶会となりました。

参加者の声

スタッフの声

今井健太郎（現地ボランティアリーダー）

僕は2014年に起きた広島豪雨土砂災害の時にめ組 JAPAN 現地リーダーとして活動しました。その時の経験から災害が起こると何か自分にもできる事が沢山ある事を知り、熊本地震や岩手県の台風10号の災害、九州北部豪雨災害、大阪北部地震など災害が起こると個人的に駆けつけ自分にもできる事で被災者さんの力になってきました。

その経験から発災後すぐにこういちマンモスから声がかかり今回の災害に対しめ組 JAPAN の現地リーダーとして活動していくことを決めました。岡山市平島地区、愛媛県西予市野村町、広島県坂町とお手伝いをしながら視察し、今回ご縁があり岡山県倉敷市真備町での活動を決めました。

災害ボランティアは災害という非日常の中で個人的にも普段経験した事のないことばかりで、今回はボランティアビレッジの設置、運営を倉敷市社協から依頼され、沢山の支援者さん、企業様、そして地元のお母さんや施設を提供していただいた方のおかげで3ヶ月間、め組 JAPAN だけでなく真備に来たボランティアさんを受け入れボランティアビレッジを運営する事ができました。

未経験な事でも本当に沢山の方のおかげでまた自分にもやればできるんだ！という事を学ばせていただきました。本当にありがとうございます。

そして、何よりもボランティアに来る1人1人が一生懸命活動する姿、そして楽しんでいる姿が直接、被災された住民さんの元気や笑顔、そしてまた頑張ろうという一歩に繋がっている事を間近で見ている、今回め組 JAPAN として活動し沢山の人が活動できる体制を作れた事が本当に良かったと思います。

全壊、半壊合わせて約5000棟もの浸水被害があった真備町。

まだまだボランティアの力を必要としている住民さんが今も沢山います。まだ自分が住んでいた町に帰ろうかどうか迷っている人が沢山います。

僕達は真備町の川辺という地区を中心に活動をしてきました。

今までにボランティアに来てくれた皆さんと共に活動してきた時間が少しずつ不安を抱えている川辺の住民さんの心の拠り所になってきていると実感しています。

これも今まで活動を続けて来れた1つの結果だと思います。

この僕達の活動も支援金や物資などをサポートしていただいた方やいつも頑張っている僕達にと食材やご飯を提供してくれる方、そして全国から真備町へ駆けつけてくれる方など本当に沢山の優しさのおかげで今まで継続してくる事ができました。

僕達が活動する事で1人でも多くの住民さんの不安を小さくし、一世帯でも多く真備の町に帰って来れるようにこれからも住民さんの力になっていき、何も無くなってしまった被災者さんの心の中に新しい素敵な思い出を創っていける活動を続けていきます。



今井 麻由

私がめ組 JAPAN で活動したキッカケはパパラが行くからでした。熊本地震以降、発災後できる限りすぐに現地入りするパパラといつも一緒に活動してきたので「今回も行くんだろうな」と思っていたところ、理事のこういちマンモスから「今回め組でリーダーをして欲しい」と声がかかり、現地視察に同行しました。当時動めていた私は1週間のお休みをいただき、その間だけという約束で。

岡山市内、愛媛県西予市、広島県を視察ながらお手伝いをして倉敷市真備町へ入りました。真備町は町全体が水に飲み込まれたような感じでどこを見ても土色。自然の力の大きさと脅威を感じ、恐ろしくなりました。発災後1週間にも関わらず、道路に所狭しと並べられた家財の山を見て、困難なことが起こっても前を向き歩もうとする被災者さんのことを思うと心が熱くなり「災害ボランティアはもうしない！」ってパパラに明言していたのに、「働いている場合じゃない！」と思い、仕事を辞め、め組 JAPAN で活動することにしました。

被災地と呼ばれる場所はいつも私に「自分に出来ること、自分の可能性」を増やしてくれます。今までは先輩に教えてもらい、工具の使い方や床の剥ぎ方、土壁の取り方や重機の操作を学びました。でも、今回は今までの経験からどうすれば住民さんの力になれるか、喜びが増えるかを思い、自分たちで考え、想像し、行動し、そこから学び、またやってみることでたくさんの笑顔が増えました。

行くたびに何度も何度も泣きながら「ありがとう。」を伝えてくれたお父さん。自分の胸の内の苦しさや悲しみ、やり場のない想いを伝えてくれたあと、「それでもこの水害がなかったらあなた達に出逢えなかったからね。今は水害が起こったことにも感謝しているよ。みんながあんなに頑張ってくれたんだもん。ここでまた生きていくからね」と伝えてくれたおばあちゃん。たくさんの感謝の想いを受け取れたのは、たくさんの方が想いをもって活動に参加してくださったおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

住民さんの悲しみや不安に寄り添うことで希望が増えました。私たちが楽しんで活動することで住民さんに笑顔と喜びが増えました。

「ありがとう。ありがとう以上の言葉が見つからんけど本当に感謝しとるんよ。本当にありがとう」たくさんの方々に伝えてもらったこの言葉が、め組 JAPAN の活動を色々なカタチで応援してくださったみなさまに届けば嬉しいです。たくさんの方々の経験をさせていただき、出合いをいただきありがとうございました。

そして、この町に住民さんが戻ってきて、幸せに過ごせるようにこれからも住民さんに寄り添って活動していきます。

鹿島 静香

私がボランティアを始めるきっかけは熊本地震でした。私自身も熊本で被災し、不安と恐怖から先のことなど何も考えられず、絶望を感じていました。そんな時め組がボランティアで入っていた小学校の避難所へ私もボランティアとして入るきっかけがあったので参加させて頂きました。

当時のリーダーさんや、全国から来ていたボランティアさんと活動する中で、皆さんの愛を肌で感じ、こんなにも熊本を想ってくれる人達がたくさん居るんだ。私は1人じゃないんだって思えた時は涙が止まりませんでした。その日から私も前向きになれ、その後もボランティアを続けることができました。私も当時、め組の皆さんに救われた一被災者の1人です。

なので今回の西日本豪雨をニュースで見た時は自然と行かなきゃって思い、真備に入ることを決めました。熊本の時の恩返しなんて大きなことは言えませんが、頂いた沢山の愛を少しでも返せたらと思い活動しています。

実際に活動していると、家主のご家族の方と仲良くなり、ありがとうと笑顔で言ってもらえる事がなよりの喜びになりました。最初は申し訳なさそうに、寂しそうにしているお母さん達が、一緒に活動するなかでどんどん笑顔になったり、前向きになってくれたりする姿がなよりの嬉しく私の原動力になりました。

「きっかけは災害だけど、あなた達に出会えて本当によかった。ありがとうね。」と言ってくれたお母さんも。私が熊本の時に思った事と同じことを言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。これは私達だけの力ではなく、全国から来て頂いたたくさんのボランティアさんが家を綺麗にしてくれ、住民さんの喜びや、希望を増やしてくれたおかげです。

床下の土を出したり、家を磨いたり、壁を崩したり、床板を剥いだり。全てが初体験の事だらけでしたが、私に出来る事を出るだけ。住民さんに寄り添いながら。これからも続けていきたいと思えます。愛に溢れるめ組で活動出来る事とても感謝しています。

川瀬 恵 (しゃむ)

西日本豪雨災害が発生した時期に、自分はたまたま広島島の友人を尋ねて遊びにきていた。目的は広島カーブを応援すること。友人がとってくれていたのは7月9日の試合のチケット。でも、豪雨の影響で試合も中止になってしまって・・・。正直 つまんないなあーと思ってた。そんな時に友人宅でぼんやりテレビのニュースを見ていたら、テレビの画面に映ったのは水に浸かった街の映像だった。

「えっ・・・。」

いつの間にこんなことになってたのか全く知らなかった。自分が大好きな土地「広島」でも被害が出てると。すぐ近くのお話だった。ボランティアと呼ばれることに今まで興味なんか無かったけど、初めて自分にも何かできることは無いかと考えた。その時に相談した友人が、たまたま見つけてきたのが「真備 美しい森 ボランティアヴィレッジ」という所での活動だった。

「えっ？岡山か・・・。ほんとは広島で活動したかったけど・・・。でも仕方ないから行ってみるか・・・。」という感じで 岡山県倉敷市真備町に行くことになってしまった。

その「ボランティアヴィレッジ」を管理・運営していたのが め組 JAPAN という団体だった。自分がたまたま調理経験者だったために、ボランティアとして真備に来た方達のゴハンを作る係になってしまった。「めんどくさいなあ・・・。」と思ってた。普段はキャンプ場として使用されている場所での調理。調理器具も乏しい。調味料もない。お鍋もフライパンも包丁もロクなものがない。お水も出ない。でも仕方ないからやってみることにした。

すると、数日間の間でどんどんいろんな物が届けられ始めた。冷蔵庫・炊飯器・フライパン・お鍋・大きいザルボール・包丁・まな板・お米・海苔・塩・砂糖・醤油・お味噌・みりん・梅干し・・・。なんなら、ボランティアの方が食事をする為の食器・お箸・スプーン・フォークまで。運営団体 め組 JAPANの方があまり乗り気じゃないのを押し切ってまで揃えてくれた。

1つ1つが誰かの好意。はてしない。「なんてこった。やるしか無くなってしまった。」ほんとは2週間でする予定だったのが、ズルズルと伸びていった。そして何よりも自分を驚かせたことは「あなたたちも真備の為に頑張ってくれとるんじやろ！私たちだって何かお返しをしたいんよっ！」と言って、一緒にゴハンを作ってくれた地元の主婦の方たちがいたこと。

もちろん本人も被災されてたのに、毎日ニコニコしながら来てくれていたから大変な目に遭ってたことも知らなかった。詳しくお話を聞かせてもらったら、「水がすぐそこまで来てたからね、二階なんだけどボートで助けにきてくれたんよー。救急隊の方達かっこよかったわー！(笑)」

それ、テレビに映ってたやつだ。自分がビックリしながら見てたテレビのやつ。そんな人が一緒にゴハン作ってくれてる。その事にビックリした。果てしないと思った。自分にも出来ることをもっと考えたいと思わせてくれた。だから、真備を出た今もこつこつと自分に出来ることをできる範囲でやろうと思える。

約3ヶ月の間。チーム総勢20名と少し。通算1500食あまり。真備キッチン'sの絆ができた。誇りに思える経験だった。地元の方と出会えて、一緒にゴハンを作って、たくさん笑って、たまに真剣なお話しもしたり そうやって出来た繋がりに感謝しかない。

自分がヴィレッジにいる間にもたくさん支えてくれた、地元の方達に感謝しかない。いつも気にかけてくれたたくさんの方達。人が人を想う気持ちってこんなに優しいんだ。これが自分にとって、岡山県倉敷市真備町でめ組 JAPAN という団体の中で起こったほんとのこと。



ボランティア参加者の声

18年7月末にはじめて真備を訪れ、め組ジャパンの活動に参加し、19年2月で4度目の訪問。夏には3週間ほど滞在させたのもあり、通算1ヶ月ほどは真備の町で過ごしているが、何件も被災者さんのお宅をお手伝いさせてもらい、少しずつ町が復興して行く様子を肌で感じる事が出来ました。思い出の詰まった自宅や町がひどい状況にあるにも関わらず、町の人たちは笑顔で復興に取り組んでいる姿に力を貰ったのを覚えています。め組ジャパンで多くのボランティアさんと一緒に活動できた事で学ばせてもらう事も増えました。素敵な人達が集まる良いチームに巡り会えた事には感謝です！

次はいつボランティア活動に参加出来るかわかりませんが、必ずまた真備に戻って来て、元の様に元気を取り戻した町を見たい！ボランティアの際には怪我しない様に気をつけてねー！私は早く足の怪我治そう（笑）

(30代男性)

僕はまだ小学生で、力作業や高い場所での作業はあまりできませんでした。だけどボランティアのみなさんが優しくしてくれ、とても、楽しく安全に作業をすることができました。め組ジャパンの皆さんありがとうございました。

(10代男性)

ボランティアに来て良かった事。ステキな仲間に出会えた事。キレイになっていく家を見て喜んでくれる住民さんに出会えた事。そしてなにより、人と人の温かさに触れ合えた事が私の宝物になりました。ありがとう！

(女性)

自分は災害ボランティアをして、どれだけ大変な思いを岡山の人々はしているかや、どれだけ自分たちが楽に暮らして当たり前の事ができないこともある人もいるから助けてあげたい。そういうことから、自分は家をきれいにしたり話したりがんばって住民さんの不安も無くせないかと思ってすぐにその家に人が住めるように早く元の家に戻してあげたいと思いが自分の中に新たに思いが生まれた。

(10代男性)

真備町での災害ボランティアへの参加。8月から休みを利用して来る事7回。来る度に町は着実に復興へと向かっているのだが、一步住宅地に足を踏み入ると、被災したままの状態で時が止まっているような光景に今でも遭遇する。微力ながら「何とかしなければ」という思いにかられ活動する数日間、少しは町の力になれたのでしょうか。スタッフの皆さん、住民の皆さん、一緒に活動する皆さんが温かくつりपीートしてしまいます。また可能な限り真備に帰ってきます。

(女性)

住民の声

我が家をきれいに磨いてもらってから早やもう4ヶ月経ちます。思えばあの時の何と楽しかった事か！被災後、粗方片付いてはいたものの、家の中には泥がこびりついたままで、この先どうして良いか分からず、家も気持ちも沈んだままでした。め組チームの明るさとパワーは私に復興の明かりを見せてくれました。いつも「大丈夫だよ」と声を掛けてくれ、今では大きな心の支えです。本当にありがとうございます！感謝！

大山好美



ツアーイベント活動報告

MAKE HAPPY では、繋がりを大切にしながら、お互いを応援しあい、助け合い「いつの間にか誰かの力になっていた」そんな希望の物語を創り続けるために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を創っています。

2018年も、感動を共有し、新たな一歩を踏み出せるきっかけの場を創ることができました。

2018年のツアー・イベント活動実績

- 1月7日 マンモスキッチン
- 2月4日 伊勢神宮正式参拝（会員限定）
- 5月5日 奇跡の講演会（ひすい塾編）
- 5月15日～16日 人生を100倍おもしろくする天才こういちマンモス in 栃木
- 5月31日 竹あかりを100年後の日本の文化に歴史を作る立役者求む！！
- 6月22～26日 山口陽介の原画展～てんとてんとてん～（神戸）
- 6月27～28日 かごしまんの個性心理学セッション&お話し in きつちゃ（神戸）
- 8月7日 向日葵の頃の約束～ Music Talk ～
- 8月21～31日 ～Camino～こうちゃん☆まるちゃんと歩くサンティアゴ・デ・コンポステーラ巡礼
- 9月17日 FUNKIST 染谷西郷 アコースティックライブ in 大阪
- 9月21日 みつひろさん ゴビレースおめでとう報告会
- 11月23日 Happy ふぐの会
- 12月15日 メイクハッピー主催「希望フェスティバル」



サポートのお願い

～僕たちの活動を応援してください～

MAKE HAPPYは、“一人一人の存在が希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる”という思いを大事にしながら、様々な活動を通して、希望の物語を創り続けて、喜びあっている世界を創って行きます。あなたの大切なご寄付が、地球に緑と笑顔を増やしていることを共有しながらみんなで喜び合える世界を創って行きます。僕たちの活動を一緒に応援してください！



MAKE HAPPY
サポーター会員 募集中!!



<https://www.makehappystory.com/sponcer>

マンスリー会員

●毎月1口1000円(何口でもお選びいただけます)

年間会員

●1万円 ●3万円 ●10万円 ●30万円 ●50万円(企業)

2018 年会計報告

収支計算書 (2018/1/1 ~ 12/31)

● 収入の部

(単位：円)

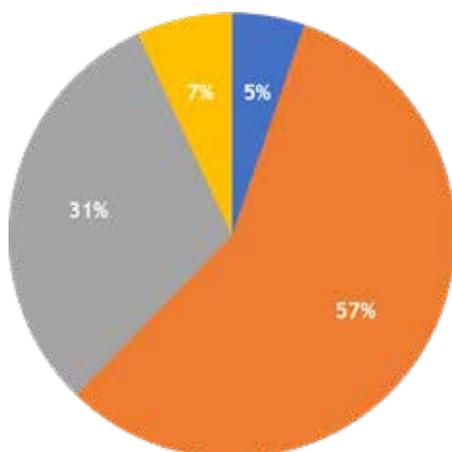
会費		1,574,950
寄付		17,123,137
事業収入		9,234,592
物品販売収入		2,084,832
		30,017,511

● 支出の部

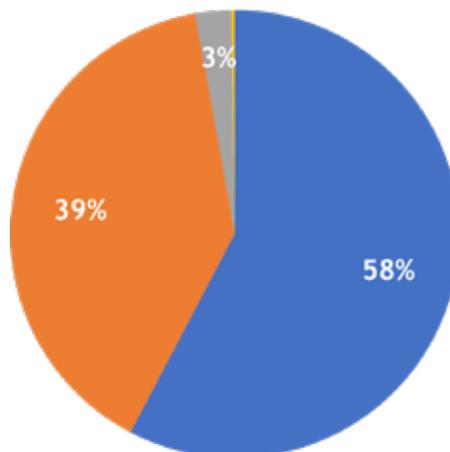
(単位：円)

事業費（活動費）		17,273,803
管理費		11,822,306
売上原価		778,588
その他		71,979
		29,946,676

収入の部



支出の部



MAKE HAPPY

私たちは、希望の物語を創り続ける NPO です。

NPO 法人 MAKE HAPPY

HP : <https://www.makehappystory.com/>

〒 651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町 1 丁目 14 - 1

MAIL : info@makehappystory.com